

実践事例① 東村山市立秋津小学校

1 取組・活動名

「あきつわくわくタイム」

2 取組・活動のねらい

- 児童が普段行わない遊びを紹介し、実際に体験させることで、児童に新たな遊びを伝える。
- 児童が新たな遊びを知り、楽しいと感じたことを自分たちで取り組み始めることで運動の日常化を図る。

3 教育課程上の位置付け

「昼休み」・「15分×18回」

4 実施上の工夫

- ・ 実施種目を本校学級数と同じ18種目準備し、毎回ローテーションで学級ごとに18回実施することで、全児童が全ての種目を体験できるようにした。
- ・ 種目担当教員を固定することで、全教員が全学級の指導を行うことができるようにした。
- ・ 学年の発達段階に応じて、ルールや使用用具の変更を行った。
- ・ 実施日の昼休み時間を10分延長し、活動の時間を確保した。
- ・ 使用した用具を児童が自分たちで使えるよう、用具庫の整備を行った。

5 本取組・活動の内容



「校内研究 体育科」

「体育学習における問題解決型授業の」

- ・ 児童から見た運動の特性の楽しさ
- ・ 運動量が確保できる授業のデザイン化
- ・ 教材の取り上げ方と提示の仕方

「体づくり運動」レッツ体カアップ(6年生)

- ・ 自己の課題にあった負荷を考え、腕立て伏臥腕屈伸に取り組む様子

「あきつわくわくタイム」

- ① リズムダンス 音楽に合わせて体を動かして踊る。
- ② なげるくん ロープに通したバトンを、遠くまで投げる。
- ③ ターゲツスナイパー フォームロケットを投げ、5分間で何点とれるかのチーム戦
- ④ たからとりおに 守りと攻めに分かれ、タッチされないように宝を取りに行く。
- ⑤ リバーシ チーム戦でケンケンや2人組で手をつないでカードをめくる。
- ⑥ 十字おに おには十字の枠しか移動できないルールでおにをよけながら回る。
- ⑦ タグ取り タグを付けて、追いかけてっこをしながらタグを取っていく。
- ⑧ シュートゲーム 得点のかかれたダンボールに向かってボールをける。
- ⑨ ジグザクリレー 対角線上にある地点からスタートし相手チームを追いかける。
- ⑩ ひまわり ひまわりの形のコートで、押す、引く、力比べをして楽しむ。
- ⑪ ろくむし 攻撃側は6周すると得点 守備側はボールを当てて得点を防ぐ。
- ⑫ バンブーダンス 1チーム5～8人で、全員竹に入ったところから数え始める。
- ⑬ ゴムだん 決められたとび方でゴムとびをする(実態に応じて)。
- ⑭ どんじゃん 線上を走り、合流したところでタッチをしてじゃんけんをする。
- ⑮ 8の字つなひき押しずもう 交互に縄を動かし、輪が8の字になったら引き合う。
- ⑯ 一りん車・竹馬 一輪車は練習用サークルを回る。 竹馬はコースを進む。
- ⑰ 肋木・平均台ランド 肋木、平均台の両方からスタートし、ドンジャンケンを行う。
- ⑱ てつぼう広場 跳び上がり・跳び下りを5回行い、次の人にバトンタッチする。



リズムダンスの様子



校庭で活動している様子

6 成果

- ・ 児童の遊びの幅が広がり、休み時間に様々な遊びを行うようになった。
- ・ 遊びの幅が広がったことにより、外遊びを行う児童が増えた。
- ・ 遊びを工夫する楽しさを体験したことで、自分たちから遊びやルールを工夫して楽しむ姿が見られるようになった。
- ・ 体育授業においても、ルールや場の工夫をしていこうという意識が高まった。

実践事例② 小金井市立東中学校

1 取組・活動名

「パラリンピアン トークショー」

2 取組・活動のねらい

- パラリンピックに対する理解を深め、興味・関心を高める。
- パラリンピアンという言葉や交流を通して、一日一日を大切に生きることや夢をもつこと、どんなに苦しくても諦めないで努力することの大切さを学び自分事として考える。
- 「障害」とは何かについて考え、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間、道徳・4時間」

4 実施上の工夫

- ・ パラリンピアンとの交流（トークショー）の企画・運営を生徒会本部の生徒が担当した。
- ・ パラリンピアンのリオパラリンピックでの映像を生徒が編集し、トークショーでのインタビューの内容を検討した。また、当日は質問コーナーも用意し、会場の生徒からも直接質問する時間を設定した。
- ・ 入退場を含めた、全ての行動の介助を生徒が行った。
- ・ 事後学習として、「オリンピック・パラリンピック学習ノート」に思ったことや考えたことを記入させ、パラリンピアンが読める形（電子データ）にして送付した。
- ・ 保護者や地域の人々にも参加を呼びかけた。

5 本取組・活動の内容



- ・ 始めに、リオデジャネイロ 2016 パラリンピック競技大会において5日間連続で5種目出場、4個のメダルを勝ち取ったレースやレース後のインタビューの映像を観た。
- ・ 臨場感あふれる試合の様子に、会場にいた全員が息を飲み、リオパラリンピックの感動を再び味わい、素晴らしさを実感した。



- ・ 生徒会本部役員の生徒2人とパラリンピアンとのトークショーでは、前半は座談会形式、後半は会場からの質問コーナーで、パラリンピアン気さくな笑顔と楽しいトークに会場が沸き上がった。
- ・ パラリンピックの銀メダルと銅メダルも披露していただき、メダルを振ると音がして、銀と銅では音色が違うことが分かった。



- ・ 当日の運営は全て生徒が行い、入退場も生徒が介助を行った。舞台へ移動する際や、マイクや水を渡す際の、生徒の自然でさりげない配慮とやりとりが素晴らしかった。
- ・ パラリンピアンは「インクルーシブな社会とは、誰もが楽しく生きていける社会」と語り、そこには、経験者だから伝えられる感動があり、誰もが「かっこいい」と感じた。

6 成果

- ・ パラリンピアンリオデジャネイロ2016パラリンピック競技大会での活躍の映像を観たり直接交流したりすることで、パラリンピックのすばらしさを実感し、スポーツへの興味・関心が高まった。
- ・ パラリンピアンが語ってくれた言葉等から、夢をもつことや苦しくても頑張りを続けること 大切さを学ぶことができ、生徒は「自分も頑張ろう」という気持ちになった。
- ・ 「そのようにかっこよくなるには、どうすればいいのですか。」と質問した生徒がいたことから、パラリンピアンを「かっこいい」「すごい」と生徒たちは純粋に思い、障害に対する意識が変わるなど、心のバリアフリーが浸透した。
- ・ パラリンピアンへの遠慮でもない過剰でもない、さりげない配慮をした生徒、それを見ていた生徒がいたことは、ともに共生社会の実現への意識付けになった。
- ・ 生徒が企画・運営することで、生徒の自主的・実践的な態度の育成につながった。
- ・ 保護者や地域の方々にオリンピック・パラリンピック教育を周知することができた。

実践事例③ 東京都立山崎高等学校

1 取組・活動名

「総合的な学習の時間・スポーツ志向」

2 取組・活動のねらい

- 2年「総合的な学習の時間」で、オリンピック・パラリンピック競技種目について1人1種目の調べ学習を実施した。文化祭で展示による成果発表をおこなった。
- 運動部員や体育系進学生徒を対象に、体幹トレーニングの専門家を招へいし、体幹トレーニング講習会(全3回)を開催した。
- 障害者スポーツの理解を深めるために、車椅子バスケットボールの体験会を実施した。実際に車いすの操作やゲームを体感することで、障害者理解を図った。

3 教育課程上の位置付け

「特別活動・6時間（2時間×3回）」

4 実施上の工夫

- ・ オリンピック・パラリンピック種目の調査研究にあたり、様式を統一し関連する情報サイトを生徒に情報提供するなど、生徒が主体的に取り組みやすくした。
- ・ 第1回「ストレッチング」、第2回「体幹トレーニング」、第3回「チューブトレーニング」とテーマごとに課題を変化させた講習として実施した。
- ・ 代表生徒の応援ができることを目的に、体育館のフロアーを囲むようにギャラリー席を設け、ミニゲームを実施した。

5 本取組・活動の内容

「オリンピック・パラリンピック競技1人1種目調べ」
(2学年・総合的な学習の時間)



- ・ 総合的な学習の時間を活用し、2学年全生徒により、1人1種目調べをおこなった。
- ・ 特にパラリンピック種目の研究は、障害者理解という視点で有意義な調査となった。
- ・ どのような用具を使用し、どのようなルールがあるのかを調べることで、種目理解だけでなく、障害者への理解が進んだ。

「体幹トレーニング講習会」 (部活動・特別活動)



- ・ 放課後に運動部生徒を集め、課外講座という位置づけで「体幹トレーニング」講習会を行った。
- ・ 「体幹・体軸という身体を支えるインナーマッスルを鍛えることで、バランス感覚も強化できる」という説明を聞き、主体的にトレーニングを実践している生徒の姿が、多数見受けられた。

「あすチャレ!車椅子バスケットボール体験&講演会」 (全学年・総合的な学習の時間)



- ・ パラリンピック種目である車椅子バスケットボール元日本代表選手を講師に迎え、実際に車いすを使用したゲームを体験した。
- ・ 車いすの操作に戸惑い、通常のバスケットボールと違い、上半身しか使えないシュートの難しさなど、生徒は、パラリンピック種目に高い関心をもつとともに、障害者スポーツについて理解が深まった。

6 成果

- ・ オリンピック・パラリンピックの様々な競技・種目を調査研究し、生徒相互の展示発表を行うことで、スポーツ志向の関心を高め、障害者スポーツの理解が深まった。
- ・ 「体幹トレーニング」講習会で学んだことを、部活動等で継続して取り組んだことで、怪我の予防や減少に役立った。
- ・ パラリンピック種目の実体験やパラリンピアン講演をとおして、障害者理解を深めることができた。

実践事例④ 東京都立八王子東特別支援学校

1 取組・活動名

「パラリンピアンとスポーツを楽しもう」

2 取組・活動のねらい

- 生涯スポーツに親しみ、スポーツ競技への興味・関心を広げる。
- 東京で開催される国際的な祭典「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」に興味・関心をもちグローバル精神を養う。

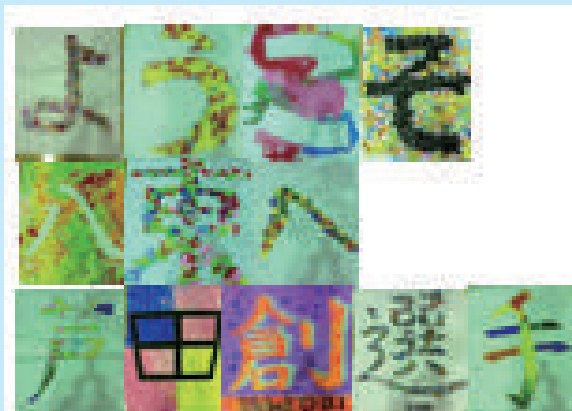
3 教育課程上の位置付け

「体育または保健体育、学級活動、HR・4時間」

4 実施上の工夫

- ・ パラリンピアンのパラリンピックで活躍した競技映像を事前学習で活用した。
- ・ パラリンピアンを歓迎するためのウェルカムボードを一学年1枚ずつ作成して、12枚を貼り合わせた。
- ・ パラリンピアンとの交流時間を設け、児童・生徒が2チームに分かれてリレーを行った。声援や走る時の空気の流れることができるように、児童・生徒近くを走るようにした。

5 本取組・活動の内容



- ・ 小学1年生から高等部3年生まで、各学年1枚ずつ分担をして、パラリンピアンウェルカムボードを作成した。
- ・ 当日は、会場である体育館にウェルカムボードを並べて、児童・生徒全員でパラリンピアンに歓迎の気持ちを伝えることができた。



- ・ 事前の学習と、当日のパラリンピアン紹介では、リオパラリンピックの出場種目である400mリレーの映像を見た。
- ・ 当日は、パラリンピアンの方のもう一つの出場種目「三段跳び」のデモンストレーション演技をしてもらい、体育館の端から端までを7歩で跳んでしまうパラリンピアンに、児童・生徒も驚いていた。



- ・ 生い立ちやパラリンピアンを目指した経緯を講演で聞いた後、パラリンピアンに児童・生徒から多くの質問が出され、丁寧に回答していただいた。
- ・ 障害があってもそれを克服し、選手としての頑張る姿に、児童・生徒からも感動したという感想が出ていた。また、リオパラリンピックの現地での様子をパラリンピアンから聞くことができたことで、児童・生徒のパラリンピックへの期待を膨らませることができた。

6 成果

- ・ リオパラリンピックの現地の様子をパラリンピアンから聞くことができ、パラリンピックに対する憧れや選手として出場したいという気持ちを児童・生徒がもつことができた。
- ・ パラリンピアンになるために、精神的に克服しなければならないことなどを理解する機会が得られ、今後の部活動などで頑張るべきことなどを知る機会となった。
- ・ リオパラリンピックで獲得したメダルを児童・生徒が触ったり首にかけさせていただいたりすることができた。視覚障害のある方に対処して、メダルを振ると音が出るということを知り、本校にも視覚障害の生徒が在籍していたので、より感動を頂く機会となった。

実践事例① 台東区立蔵前小学校

1 取組・活動名

「和食のよさを伝えよう（日本人としての食文化の継承）」

2 取組・活動のねらい

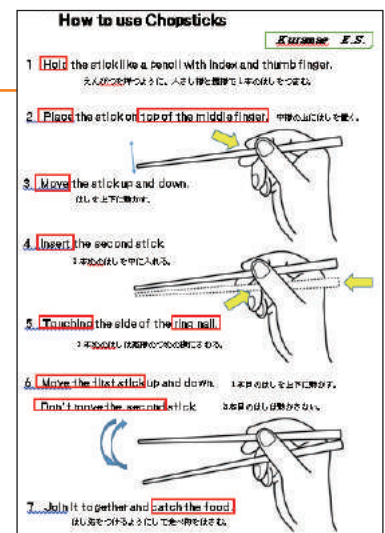
- 児童が日本の食のよさを理解する。
- 身に付けたことを外国の方に伝えられるようにし、日本語や外国語で外国の方に伝え、食の交流を図る。
- 将来外国へ行ったり、外国の方と触れ合ったりする時に食に関する知識が役立てられるようにする。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・6時間」

4 実施上の工夫

- ・ これまで箸や行事食、出汁やお茶入れなど食育について学習してきたことを復習する。
- ・ ALTと協力して英語で箸使いを教えるためのプログラムを作成する。
- ・ 外国のお客様を招き、聞いてもらい、給食を食べながら交流する機会を設定する。



5 本取組・活動の内容



「課題についての調べ学習」

- ・ テーマ「和菓子」「給食」「季節の食材」「日本の行事食」「だし」「箸の持ち方」「お茶」等課題別グループで学習する。
- ・ 図書室の資料やインターネットを活用し各テーマについて、課題「外国の方にとって興味がもてることはどのようなことか」に基づいて調べ学習を行う。



「課題別のワークショップ」

- ・ グループごとにワークショップ型のプレゼンテーションを行った。
- ・ 英語や身ぶり・手ぶり、絵や写真を使って、相手に分かりやすく説明をして、実物を用いて体験していただいた。



「外国の方との交流給食」

- ・ 来校した外国の方々と給食を食べながら、英語での会話を楽しんだ。
- ・ 外国の方から食についての話を聞くことで日本食の良さを再確認した。
- ・ 給食時に子供たちの箸使いを見ていただき、外国の方に和食の素晴らしさを実感していただいた。

日本人としての
自覚と誇り

6 成果

- ・ 学習したことを人に伝えるために復習したり調べたりすることで、和食に対する意識が定着するとともに、和菓子、お茶などでもてなすことで、相手を思いやる心が態度として表れた。
- ・ ほぼ全員の児童が必要感として、伝えたいことがあるのに英語がうまくでてこなかったのも、もっと英語を学びたい、外国の方と交流したいという思いがあった。
- ・ おもてなしはこれまでの積み重ねがあったが、外国の方へのおもてなしは初めてなので、よい経験となり、英語は使えないが、相手に伝えようと努力する姿が見られた。
- ・ 日本の食文化を誇りに思い、和食給食を大切に美しい所作で、残さず食べるようになった。

実践事例② 文京区立第九中学校

1 取組・活動名

「日本の伝統・文化に触れ、その良さを実感しよう」

2 取組・活動のねらい

- 日本の伝統・文化に直接触れる機会を数多くもつことで、その良さを実感するとともに、長きにわたり継承されてきた素晴らしさを誇りに思う態度を育成する。
- 日本の伝統・文化の良さに触れ、豊かな人間性を育むことで、オリンピック・パラリンピックの精神の涵養に資する。
- 日本の伝統・文化の良さを実感し、それを積極的に発信しようとするすることで、世界の中で日本人としてよりよく生きていこうとする態度の基礎を培う。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間、特別活動・14時間」

4 実施上の工夫

- ・ 文京区の関係部署や教員が有しているネットワークを活用し、計画的に日本の伝統・文化の専門家を招へいできるようにした。
- ・ 事前学習及び事後学習を計画的に位置付け、生徒の興味・関心を高めるとともに、振り返りを行うことによって、学びの定着を図るようにした。
- ・ 日本の伝統・文化を学ぶ取組を計画的に位置付け、推進することによって、3年間を通して学びを深め、その良さを発信できる態度の基礎を培えるようにした。

5 本取組・活動の内容

<日本の伝統・文化を学ぶ教室>



- ・ 講師の狂言師によるワークショップ・講演会を開催した。
- ・ 事前に狂言について学び、基礎知識を得た上で実施したが、歴史の説明に始まり、生徒全員への作法の伝授、代表生徒によるワークショップを通じて、狂言の奥深さと魅力を実感するとともに、日本の伝統・文化を大切にしていこうとする態度を培うことができた。

<生涯学習講座>



- ・ 生涯学習講座として、1・2年生を対象に着付けや生け花、そば打ち、水墨画、囲碁、スポーツチャンバラなど日本の伝統・文化に関連するものを体験・学習する機会を設けた。
- ・ 事前にそれぞれの特長を調べ、希望する講座を選択して参加した。
- ・ 事後には、それぞれの講座の良さについて意見を交換することで、将来にわたって日本の伝統・文化の良さに目を向けていこうとする態度を培うことができた。

<百人一首大会>



- ・ 国語の古典学習に関連させ、百人一首について学んだ上で、学年ごとに学級対抗の百人一首大会を開催した。事前学習では、図書館支援員が百人一首の歴史や特長について支援授業を行い、興味・関心を高めるようにした。
- ・ 今年度は、区の文化振興担当部署との連携を図り、かるた協会や大学のかるたサークルとの協働による事前学習を行い、日本の伝統文化の良さをより深く味わえるようにしていく予定である。

日本人としての
自覚と誇り

6 成果

- ・ 日本の伝統・文化を学ぶ教室について、直近の3年間で能、狂言、和太鼓の専門家を招へいすることができ、今後も継続的に実施可能な取組となった。
- ・ 専門家から直接学ぶことで、それぞれの歴史や特長、特有の深みを実感することができ、興味・関心に加えて日本の伝統・文化の総体をとらえた学びの姿勢が深まった。
- ・ 生涯学習講座として楽しみながら日本の伝統・文化に触れ、その良さを実感するとともに将来にわたって積極的に目を向けていこうとする態度を培うことができた。
- ・ 百人一首大会の取組を通して、学級や班単位で学びを深めようとする主体的な取組が見られ、積極的に日本の伝統・文化に触れていこうとする姿勢が高まった。
- ・ 事前・事後学習を行うことによって関心・意欲を高めるとともに、それぞれの学びを深め、横断的につなげることができた。
- ・ 文京区担当部署や専門機関との連携による活動を積極的に展開することにより、教職員の「開かれた学校づくり」に対する意識が高まり、他の取組にも波及効果が見られた。

実践事例③ 東久留米市立南中学校

1 取組・活動名

「2020年東京大会で日本ならではの『おもてなし』」

2 取組・活動のねらい

- 日本人としての自覚と誇りの涵養をテーマとして、子供たちが日本の良さを理解し美徳を身に付け、日本人としての自覚と誇りをもてる教育を推進する。
- 職場体験、遠足、「世界ともだちプロジェクト」を中核として、「おもてなし」の視点から、指導内容を相互に関連付ける。
- 企業と連携し、日本企業の強みやおもてなしを題材とする教育プログラムを活用し、「日本人としての自覚と誇り」に気付く、知る。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・7時間」

4 実施上の工夫

- ・ 研究開発した教育プログラムの実践を基に各教科等、朝や帰りの学活、校長講話などの日常的な指導の中でオリンピック・パラリンピックについて触れる。
- ・ ゲストティーチャーとして、なでしこジャパンの選手、五輪マラソン銀メダリストなどの外国人アスリート、パラリンピアン及びブラジル大使館一等書記官と交流し、本物に触れる機会を設定した。
- ・ 「特別の教科 道徳」において 「日本人としての自覚と誇り」を考え、議論する場を設定した。

5 本取組・活動の内容



- ・ 「教育プログラム」を活用し、企業と連携して「総合的な学習の時間」を実施した。
- ・ 本校の取組をプログラムに反映させ、本時のねらいに合わせて活動を精選するなど、プログラムにある授業用教材（パワーポイント）や授業展開を学校独自に創意工夫した。
- ・ 第2学年では、「多様性と国際理解 ― おもてなしを考える ―」を題材に行った。



- ・ 第2学年では、9月30日の都内めぐり遠足において、施設見学や町中から「日本ならではのおもてなし」を発見する課題を設定した。
- ・ 事後学習として、班ごとに「東京のおもてなし」をテーマに掲示物にまとめた。多言語の表示だけではなく、日本は忘れ物が届く国を示している写真や、ごみの分別の種類が多くてもしっかりと分別されているルール・マナーが徹底されている写真などを掲示した。その後、各クラスにて班ごとの発表や展示会を行い、日本の良さへの理解を深めた。



- ・ 11月22日にブラジル大使館外交官を招き、講演会と交流を実施した。
- ・ 全学年を対象に、世界ともだちプロジェクトで選択したブラジルについて、夏季休業中の課題として、調べ学習を行った上で、「ブラジルの歴史や文化や習慣、日本との交流について、リオオリンピック・パラリンピックについて」をテーマに講演会を行った。
- ・ また、おもてなしの一環として、茶道部生徒が茶を点て、外交官におもてなしをした。

6 成果

- ・ オリンピアン・パラリンピアンとの直接交流、外国人アスリート等へのおもてなし、学年の取組を通じて、子供たちが日本の良さを理解し、日本人としての美徳や良さを学ぶ機会をつくることができた。第2学年では年間を通して、様々な教育活動において「おもてなし」の視点をもって取り組むことで、事後学習や作文から異文化理解や自国の文化に対する理解を深めたことがうかがえた。
- ・ 事前学習として、講演者の経歴や実績、道徳的価値等を理解させるとともに、生徒一人一人に質問を考えさせた。そのことにより生徒は目的意識をもって講演会に臨み、当日は代表生徒が実際に質問し、交流をした。その取組について、オリンピック・パラリンピックノートを活用し、講演会等の感想等を記入し、記録に残すことでオリンピック・パラリンピックへの理解を深めることができた。
- ・ 今後の自分の行動の仕方や生き方を考えることにつながり、事後の生徒の感想から「失敗しても前を向き続けることの大切さを実感した」など、ゲストティーチャーの生き方が子供たちの考え方に大きく影響していることがうかがえた。

実践事例④ あきる野市立秋多中学校

1 取組・活動名

「1年生:茶道体験学習 2年生:能体験学習 3年生:マナー・プロトコール学習」

2 取組・活動のねらい

- 茶道の体験を通して日本の伝統・文化に触れるとともに、おもてなしの心を考え、学ばせる。
- 能の舞や謡の体験を通して日本の伝統・文化に触れ、自分自身が理解できるとともに自国の文化を他者に説明することができる力を付けさせる。
- 社会人としてのマナーや2020年に向けた国際儀礼について体験を通して学び、自己の進路実現に向けて進んで取り組む力を付けさせる。

3 教育課程上の位置付け

「道徳、国語、総合的な学習の時間・各2時間」

4 実施上の工夫

- ・ 講師には、地域人材を活用した。茶碗等の道具は生徒一人一人に行き渡るように準備した。
- ・ JET青年を招いて、生徒との交流を図り、日本文化に触れていただいた。
- ・ 能楽師の舞を見た後、生徒全員で謡を体験した。説明を聞く時間よりも体験することに重きを置いた。
- ・ 3年生の2学期の進路面談を実施する前に企画し、自己の進路実現に向けた動機付けとした。

5 本取組・活動の内容



「茶道」

- ・ 各学級で事前指導を行い、基礎知識を学んで体験当日に備えた。
- ・ 講師の説明と模範の後、2人組になりお茶を点てる役といただく役を体験した。
- ・ お茶をいただいた後、感謝の気持ちを伝え合った。
- ・ JET青年にも体験していただく中で、生徒との交流や日本文化への理解を図った。
- ・ 生徒は講師の先生にお礼を伝え、教室で振り返りの感想文を書いた。



「能」

- ・ 各学級で事前指導を行い、基礎知識を学んで体験当日に備えた。
- ・ 衣装や小道具などの実物を見ながら説明を聞いた。
- ・ 講師の舞を見せた後、講師と一緒に生徒全員で「高砂」を謡った。
- ・ 代表生徒が足袋を履き、姿勢や足の動きの体験をして感想を述べた。
- ・ 代表生徒がお面をつけ、動きや視野について感想を述べた。



「マナー」

- ・ 学習読本中学校編を事前学習で活用し、体験当日に備えた。
- ・ 日本マナー・プロトコール協会より認定講師を招き、日本文化の良さと国際的な交流の必要性について講話を聞いた。
- ・ キャビンアテンダントを養成する場合の指導内容について講話を聞いた。
- ・ 相手に良い印象を与える挨拶の仕方について、実技を交えて体験した。

6 成果

- ・ 茶道体験では日本の文化を理解し、おもてなしの心を実践的に学べた。この取組について生徒アンケートでは、94%の生徒が「良い取組だった」と答えた。
- ・ 能の体験では、95%の生徒が「舞と謡について体験的に学べて良かった」と答えた。
- ・ マナー・プロトコール学習では、90%の生徒が「相手に良い印象を与えられるあいさつの仕方が学べて良かった」と答えた。
- ・ JET青年が、茶道体験や能体験だけでなく、英語科が企画した各学年のスピーチコンテストにも審査員として参加し、生徒との交流を図ることができた。
- ・ 保護者アンケートでは、84%の方が全ての取組に対する肯定的な評価をしていた。

実践事例⑤ 東京都立城南特別支援学校

1 取組・活動名

「日本の正月・餅つき」

2 取組・活動のねらい

- 日本の伝統・文化である、お正月の取組を体験する。
- 餅つきの雰囲気を感じて五感で感じる。
- 餅つきを通して、伝統・文化を学び日本人として自覚と誇りを身に付ける。

3 教育課程上の位置付け

「生活単元学習・5時間」

4 実施上の工夫

- ・ 生徒が法被や鉢巻きを着用することで、日本行事の雰囲気を出した。
- ・ 食紅を入れ紅白餅を作り、めでたい行事であることを強調した。
- ・ 直接手で触ることで、視覚、聴覚嗅覚以外の触覚でも餅を感じられるようにした。

5 本取組・活動の内容

- ・ 生徒が個々に力を入れやすい方法で杵を持ち、教員と一緒に餅つき体験をする。
- ・ 琴や和太鼓等日本の伝統楽器の音色のなか、雰囲気を視覚や聴覚で感じて楽しむ。



- ・ つきたての餅を手元に運び、良い匂いを嗅覚で味わう。
- ・ つきたての餅を直接触ったり引っ張ったりすることで、触覚でも餅を感じる。



- ・ 家庭へのお土産用の餅をラップにで包み形を整える。
- ・ 完成したお汁粉を味見したり匂いをかいだりする。



日本人としての
自覚と誇り

6 成果

- ・ 音や衝撃に初めは驚く生徒もいた。活動内で徐々に落ち着き、表情が穏やかになり受け入れた様子だった。視覚・聴覚等で楽しんで活動できた。
- ・ 直接お餅を触ることで温かさや柔らかさを感じることができた。触った感触が気に入る、指先や手をたくさん動かし、触覚で餅を感じることもできた。
- ・ つきたての餅やできたてのお汁粉の匂いが気になり、鼻を動かしたり鼻に近づけたりする様子が見られ、嗅覚・味覚等でも餅つきを楽しむことができた。
- ・ 自分でついたり丸めたりした餅をお土産として持ち帰ることで、家庭での話題になり、生徒の活動を家族にも知ってもらえた。

実践事例① 北区立梅木小学校

1 取組・活動名

「豊かな国際感覚の醸成・“うめリンピック”をひらこう」

2 取組・活動のねらい

- オリンピック・パラリンピックで行われる競技のルールや歴史等を調べたり、様々なスポーツを体験したりする活動を通して、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、世界に目を向け多様な民族や国々の文化を理解することができる。
- 様々な人とのかかわり合いを通して多様な考えや生き方があることを知り、自分をより成長させるためにどうすべきかや、自分らしい生き方を考えることができる。
- 調べて分かったことや発見したことを、自分なりの方法で分かりやすく表現し、伝え合うことができる。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・30時間」

4 実施上の工夫

- ・ 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」の育成すべき5つの資質を、高学年2年間の取組を通して育む。
[5年生]各教科、領域を通して具体的実践に取り組み、オリンピック・パラリンピックについて学ぶ(知る)。
[6年生]オリンピック・パラリンピックについて学んだ(知った)ことを生かして、やってみたい取組や交流について話し合い、テーマを決め、イベント(例:うめリンピック)を開催する。
- ・ オリンピック・パラリンピック種目の発祥や歴史、各国の国技や人気の高いスポーツなどに興味をもって調べることで、世界に目を向け多様な民族や国々の文化を理解するきっかけとする。

5 本取組・活動の内容



「オリンピック・パラリンピックについて知ろう(10時間)」

- ・ オリンピック・パラリンピックについて興味・関心を高めることができた。
- ・ オリンピック・パラリンピックに関して、やってみたいことや調べたいこと、考えたいことを追究することができた。
- ・ 情報を共有し、みんなで「できること」や「したいこと」を考えた。

「わたしたちがつくる「大イベント」に向けて追究しよう（14時間）」

- ・ 自分の追究したい課題を決めました。
 - <体験・やってみる!>
 - ◇重さ体験グループ・高さ体験グループ
 - ◇オリンピック・パラリンピックの種目をやってみるグループ
 - <知る・見る・比べる>
 - ◇メダルグループ・開閉会式グループ
 - ◇種目グループ・選手の体格調べグループ
 - ◇選手と速さ比べグループ・歴史グループ
 - ◇アンケートグループ
 - <参加・意識を高める>
 - ◇下級生や地域への呼びかけ(発表会「大イベント」への招待)
- ・ 課題を実現するための計画を立てて追究し、その結果を表現した。(大イベント)



「大イベント（うめリンピック）を開催しよう（6時間）」



- ・ 「大イベント」の計画を立てて、発表の準備を行った。
- ・ 「大イベント」を開催した。
 - ◇地域の方や下級生、アスリート等を招待し伝えたいことを発信した。
- ・ 招待した方々から感想をいただいた。
- ・ 学習を振り返り、自己の成長に気付くよう促した。

6 成果

- ・ 児童同士で学び合う機会を多くとったことで、主体的に意見を言ったり、質問をしたりする姿が見られ、学び合いを通して学習を深めようとする児童が増えた。
- ・ オリンピックやパラリンピックについて児童が疑問や興味をもったことを調べ、分かったことや知らせたいことを表現する活動を通して、発表の対象を「自分たち」から「下級生や地域の方」などに広げ、手紙やポスターを書いて招待しようと考え実行するようになった。
- ・ オリンピックやパラリンピックの種目について調べたり、体験したりする活動を通して、オリンピック・パラリンピックに親しむとともに、様々な運動やスポーツについて興味をもって取り組もうとする姿が多く見られた。
- ・ オリンピック・パラリンピック種目の発祥や歴史、各国の国技や人気の高いスポーツなどに興味をもって調べる活動を通して、世界の多様な国々の歴史や文化に関しても興味をもち、進んで調べたりコミュニケーションを図ろうとしたりする姿が見られるようになった。

実践事例② 世田谷区立三宿中学校

1 取組・活動名

「スポーツクライミング」

2 取組・活動のねらい

- 東京2020大会に正式採用されたスポーツクライミング（ボルダリング）を体験することで、運動やスポーツへの興味・関心を高める。
- 保健体育授業や部活動のトレーニング、昼休み運動遊び活動に活用することで、体力の向上を図る。
- この施設を活用し、夜間学級に在籍する外国籍の在學生と、日常的な文化や言語の交流の場にする。

3 教育課程上の位置付け

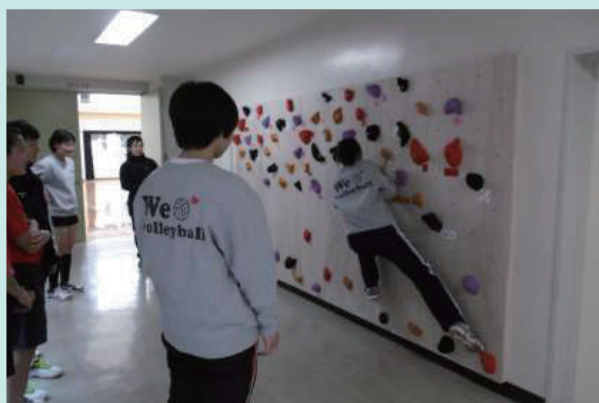
「保健体育・特別活動」

- ・ 特別活動：部活動
- ・ 保健体育科：体づくり運動（体力を高める運動）
- ・ その他：昼休み運動遊び

4 実施上の工夫

- ・ 本格的な取組ができるよう、プロクライマーにホルダー（用具）のレイアウトを依頼するとともに、生徒及び教員向けの実技講習会を実施した。
- ・ 安全面への配慮から、水平方向への移動のレイアウトにした。
- ・ レイアウトを難易度別に色分けすることで、課題解決型の運動として取り組むことができるようにした。

5 本取組・活動の内容



「運動部活動のトレーニングとしての活用」

- ・ 各運動部（陸上部、ソフトテニス部、硬式テニス部、バドミントン部、バスケットボール部、バレーボール部、陸上部、野球部、サッカー部）が平日の放課後活動時に、体幹・握力・柔軟性を高めるトレーニングとして活用している。



「保健体育科授業での活用」

- ・ 保健体育科授業の「体づくり運動」において、「体力を高める運動」の取組の一つとして、スポーツクライミングを活用している。



「昼休みの遊びとしての活用」

- ・ 生徒のスポーツ志向を高めるために、昼休みの遊び活動として、スポーツクライミングを開放している。体育委員会の生徒で月曜日から金曜日まで曜日ごとに担当を決めて場の管理をしている。

6 成果

- ・ 全身の筋力を高めるとともに、関節の可動域を広げる運動として、運動部活動や体育の授業において、効果的に活用することができた。
- ・ 難易度別に色分けすることで、課題解決型の運動として取り組むことができた。
- ・ 昼休み運動遊び活動として開放することで、体育の授業や運動部活動以外で運動に親しむ機会を設けることができた。

実践事例③ 東京都立大島高等学校

1 取組・活動名

「郷土芸能祭・椿ガイドボランティア・留学生国際交流」

2 取組・活動のねらい

- 中心となる3つの取組を発展的に実践し、日本人としての自覚と誇りを土台として、異なる文化や価値観を理解し、世界に向かう姿勢や国際感覚を醸成していく。
- 郷土芸能や椿などの大島の伝統・文化を活用し、その良さを広く発信したり、おもてなしの心を育てたりして、他者との交流やコミュニケーションを促進する。
- 国際理解の活動や交流を通して、世界の国々に対する興味・関心を高め、世界が抱える課題に向き合い行動に移せる姿勢と能力を育成する。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間、人間と社会・15時間」

4 実施上の工夫

- ・ 郷土芸能祭は、1・2年生が「総合的な学習の時間」として約2週間の練習を行い、当日の発表を迎える。3年生は「人間と社会」として運営にあたる。保護者や地域の指導者200人以上に協力いただくので、運営打ち合わせを綿密に行った。
- ・ 椿ガイドボランティアは、約380品種あるツバキの椿園マップや外国人のための英文ガイドの作成、QRコードでのスマートフォンによる花の紹介などの工夫をした。観光協会などと連携し、椿ガイドの紹介や実施日などについて観光客に周知を図った。
- ・ 留学生との交流活動は、全校生徒を7グループに分けて、各グループが7か国の留学生の中から2人と1時間ずつ交流を行った。あらかじめ留学生の国について調べて知識を高めたり、当日郷土芸能を披露して歓迎したりして、交流を効果的に行った。

5 本取組・活動の内容



「郷土芸能祭」

- ・ 大島の7つの地域の伝統芸能である地踊りや太鼓を、1・2年の生徒全員が各々の居住地域において2週間にわたり地域の方々や師匠に教わり、本校でその発表としての郷土芸能祭を実施した。
- ・ 大島の町を挙げての取組となり、地域の伝統文化継承の大切な場として地域住民からも好評を得て、郷土への自覚と誇りをもつことができた。



「椿ガイドボランティア」

- ・ 本校椿園が教育機関として世界で初めて「国際優秀つばき園」に認定されたことから来園者が大幅に増加し、日本人のみならず海外からの観光客も増加した。
- ・ 椿園を活用した、生徒による椿ガイドボランティアの取組は、島の内外からの評価も高く、町おこしにつながり、生徒の意欲向上とともに、英語による椿ガイドの習得などの生徒の努力に繋がっている。



「留学生との交流活動」

- ・ 全校生徒によって、7か国の留学生（大学生）7名との国際理解・交流活動を行い、世界の国々への興味・関心を高めることができた。
- ・ また、2回実施した国際理解講演会や友達プロジェクト、フォトランゲージによる国際理解学習などと併せて、世界を知り、世界の問題を理解し、世界に向かう姿勢を高めていく発展的な取組を行うことができた。

6 成果

- ・ 郷土芸能祭の取組によって、大島の人間として、また日本人としての自覚と誇りを持つことができ、留学生等との交流に活かすなど、国際感覚を磨く土台を築き国際理解意識の涵養にもつなげることができた。
- ・ 国際優秀つばき園を活用した椿ガイドボランティアの取組は、大島の財産である椿の良さを世界に発信するするとともに、おもてなしの心の醸成に大きな成果を得ることができ、生徒の意欲と自信を高めた。
- ・ 留学生との国際交流活動や国際理解講演会などにより、世界の国々への興味・関心は着実に高まり、アンケート調査の結果から生徒の99%が海外の国々への興味・関心をもつに至った。
- ・ 第3学期に実施した国際理解講演会では、世界を知ることから発展させ、世界が抱える問題を取り上げて課題解決に向かう意識を高めることをねらいとした。大きな成果を得ることができ、世界に向かう姿勢と国際感覚の醸成を図ることができた。

実践事例協力校一覧

【小学校】

台東区立蔵前小学校
墨田区立言問小学校
墨田区立小梅小学校
江東区立東陽小学校
大田区立大森第五小学校
世田谷区立弦巻小学校
渋谷区立笹塚小学校
中野区立中野本郷小学校
豊島区立要小学校
北区立梅木小学校
荒川区立ひぐらし小学校
板橋区立蓮根小学校
江戸川区立本一色小学校
八王子市立式分方小学校
連雀学園三鷹市立南浦小学校
小平市立小平第十二小学校
日野市立夢が丘小学校
東村山市立秋津小学校
東大和市立第六小学校
多摩市立連光寺小学校
多摩市立豊ヶ丘小学校
西東京市立東小学校

【中学校】

中央区立晴海中学校
港区立御成門中学校
港区立小中一貫教育校お台場学園
文京区立第九中学校
大田区立貝塚中学校
大田区立安方中学校
世田谷区立三宿中学校
杉並区立天沼中学校
練馬区立開進第四中学校
練馬区立貫井中学校
足立区立千寿桜堤中学校
小金井市立東中学校
東久留米市立南中学校
武蔵村山市立第二中学校（村山学園）
多摩市立聖ヶ丘中学校
あきる野市立秋多中学校

【高等学校】

東京都立第三商業高等学校
東京都立山崎高等学校
東京都立大島高等学校

【特別支援学校】

東京都立八王子盲学校
東京都立城南特別支援学校
東京都立八王子東特別支援学校

オリンピック・パラリンピック教育
実践事例集

東京都教育委員会印刷物登録
平成 29 年度 第 76 号

平成 29 年 9 月発行
編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話 0 3-5 3 2 0-7 7 8 7

印刷会社名 ミナトメイワ印刷株式会社

